

事後評価報告書(日本－フィンランド研究交流)

1. 研究課題名:「ヒト由来の培養促進添加物の開発」

2. 研究代表者名:

2-1. 日本側研究代表者:国立大学法人大阪大学大学院医学系研究科 教授 澤 芳樹

2-2. 相手側研究代表者:ヘルシンキ大学生体医療研究所 准教授 Esko Kankuri

3. 総合評価: (A)

4. 事後評価結果

(1)研究成果の評価について

研究目標が明確で、開始時点での相互分担の仕分けなど準備が十分になされており、双方にメリットのある研究計画となっていたことが成果に結びついたと考える。細胞シートの細胞脱落抑制に対し誘導型一酸化窒素合成酵素(iNOS)の発現を増強した骨髄間葉系幹細胞(MSC)添加効果の確認など、細胞シート移植治療の基盤技術強化に寄与する知見を得たことを評価する。

一方、交流期間内に発表された論文と学会発表が十分ではなかったように思われる。今後、実用化の可能性を持つ知見を得たのであれば、特許出願ならびに論文作成はぜひ確実に完了してほしい。

(2)交流成果の評価について

若手研究者の2名がフィンランドに長期滞在しており、他のプロジェクトにはない特徴となっている。最終報告書から判断すると、両名の研究の遂行に有意義な滞在であったようであり、若手研究者の育成という観点からは評価できる。ただ、本プロジェクトに参加した研究者が多数記載されているが、これだけ多くのメンバーからなる研究体制を取った以上、研究者を派遣する事に加えて、もう少し多面的な交流の取り組みが出来たのではないかと考える。

(3)その他(研究体制、成果の発表、成果の展開等)

本研究で得られた成果が今後実用化される場合には、国内外の複数の企業間での契約締結などの業務が不可欠であろうが、その際には慎重かつ積極的な取り組みが望まれる。